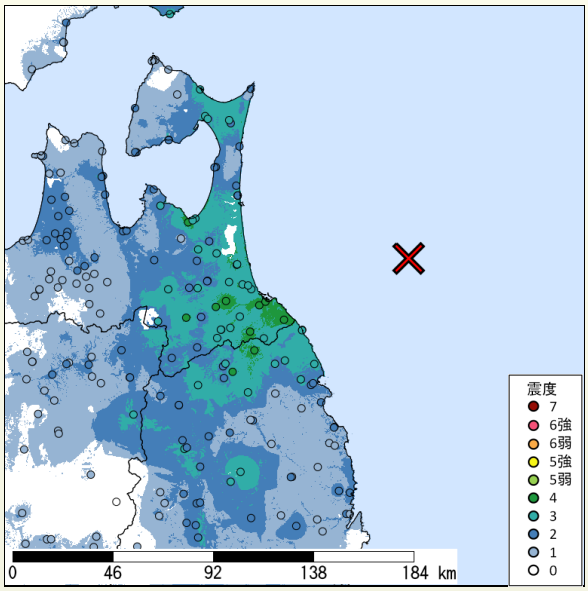
M 5.5, 震源地:青森県東方沖, 深さ約50km, 2025/12/21 10:29頃発生 （気象庁発表）

震度の分布　最大観測震度4 (*)



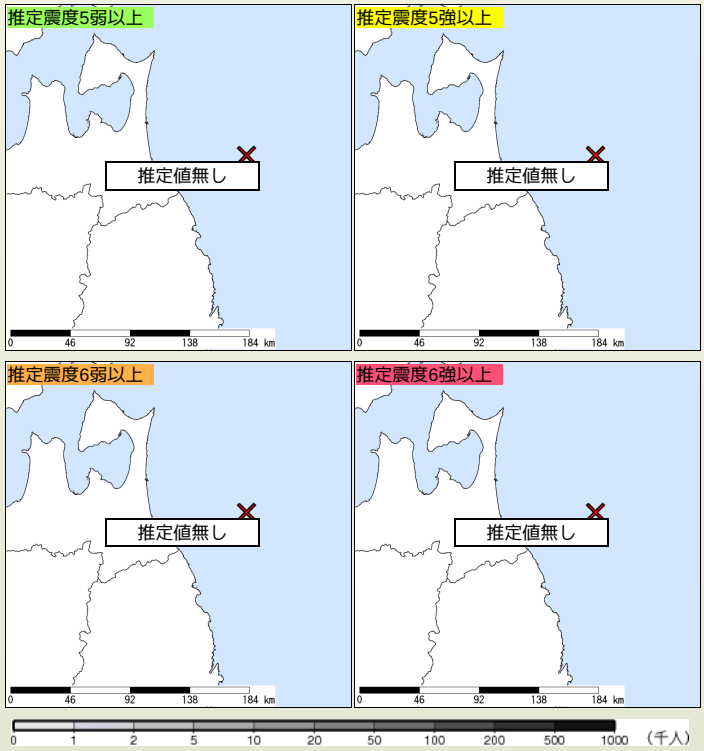
解析開始時点(2025/12/21 10:39:32)で収集されている防災科研K-NET, KiK-net, 気象庁, 地方公共団体震度計の計測震度データを利用。（＊）気象庁発表の情報と一致しない場合がある。 一部正式な震度観測点ではない観測点を含む。暫定的な震度値を含む。丸印は観測、塗りつぶしは推定データ。×印は震央位置。 他の図表も同様。

主要都市の推定震度　（都市の最大観測震度と人口を考慮して掲載）

最大(*)観測震度	推定震度頻度分布 1 2 3 4 5- 5+ 6- 6+ 7	市区町村名	全人口：昼間 (人)	震央距離 (km)
4		青森県上北郡野辺地町	13,000	100
4		青森県八戸市	240,000	71
4		青森県三沢市	38,000	78
4		岩手県二戸市	29,000	96
3		青森県上北郡おいらせ町	20,000	77
3		岩手県盛岡市	320,000	147
3		北海道函館市	270,000	177
3		青森県むつ市	57,000	115
3		岩手県八幡平市	26,000	133
3		青森県十和田市	63,000	93
3		秋田県鹿角市	31,000	138
3		岩手県久慈市	36,000	71

最大観測震度は、各市区町村内で観測された最大震度。観測された計測震度を250mメッシュで補間し、市区町村ごとに推定震度頻度分布を作成した。報開始時刻が9:00-18:59のとき昼間人口、19:00-8:59のとき夜間人口を示し、平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を二桁精度になるよう四捨五入した。震央距離は震央から各市区町村中心部までの距離。

行政区ごとの震度遭遇人口　（各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載）



震度5弱以上の震度遭遇人口の推定値が無い場合、
震度遭遇人口は表示されません。

補間した250mメッシュの推定震度分布と、250mメッシュに細分化した平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を重ね合わせ、各行政区の震度遭遇人口を推計した。

この地域で起こった過去の主な被害地震

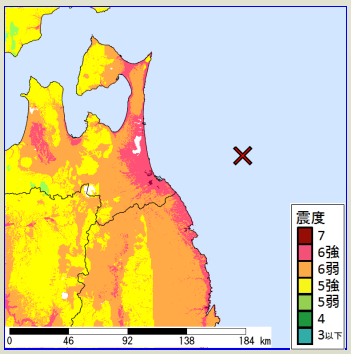
発生年	地震名	M	被害
1763	陸奥八戸 (宝暦の八戸沖地震)	7.3	前年12月の地震以来震動とまらず，この日強震．建物の被害が多かった．
1763	陸奥八戸	7.0	城の塀倒れ，御朱印蔵の屋根破損．
1769	八戸	不明	御殿通り・外側通りで所々破損，南宗寺で御霊屋など破損．大橋落ちる．
1832	八戸	6.5	土蔵の破損が多かった．南宗寺・本寿寺の石碑所々痛む．
1854	陸奥	6.5	三戸・八戸で被害．地割れがあった．
1856	日高・胆振・渡島・津軽・南部 (安政の八戸沖地震)	7.5	震害は少なかったが，津波が三陸及び北海道の南岸を襲った．南部藩で流失93，潰106，溺死26，八戸藩でも死3など．余震が多かった．1968年十勝沖地震に津波の様子がよく似ており，もう少し海溝寄りの地震かもしれない．
1858	八戸・三戸	7.3	八戸・三戸で土蔵・堤水門・橋など破損．青森・弘前・陸奥・田名部・鰺ヶ沢・秋田で強く感じた．
1901	青森県東方沖	7.2	青森県で死傷18，木造潰家8，秋田・岩手でも被害があった．宮古に波高60cmの津波があった．
1902	青森県東部	7.0	三戸・七戸・八戸などで倒潰家屋3，死1．前の地震の余震か？
1945	青森県東方沖	7.1	青森県で家屋倒壊2，死2．八戸などで微小被害，津波全振幅35cm．
1968	青森県東方沖 (十勝沖地震)	7.9	青森を中心に北海道南部・東北地方に被害．死52，傷330，建物全壊673，半壊3004．青森県下で道路損壊も多かった．津波があり，三陸沿岸3～5m，襟裳岬3m，浸水529，船舶流失沈没127．コンクリート造建築の被害が目立った．

出典：国立天文台編「理科年表 平成29年」，丸善出版 (2016), 一部表現を割愛

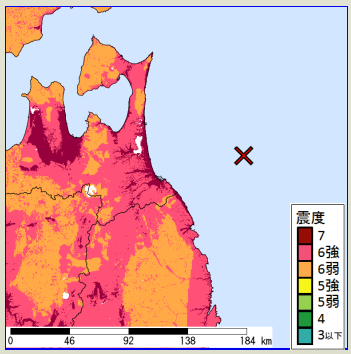
J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。（2024年地震ハザード評価）

50年間超過確率2%の計測震度分布



再現期間50000年相当の計測震度分布



国立研究開発法人 防災科学技術研究所 (c) 2013